



黒島魂

～しまごころ～

「みがきあい(キラキラ)」

「ささえあい(ニコニコ)」

「わかりあい(ワクワク)」

立ちはだかる壁

令和4年10月18日（火）に配付させていただいた、学校だよりで「学校の働き方改革」についてお知らせしました。その記事の中に、全国的に教師不足であるということを書かせていただいたのですが、今回はこのことを少し掘り下げてお伝えしようと思います。

2023年1月16日配信の日本経済新聞（電子版）に「**先生の質を保てない 公立2000校で欠員、1年で3割増加**」という見出しの記事がありました。その記事によると「全国68の都道府県・政令指定都市に、2022年5月1日時点の配置状況を尋ねたところ、公立小中高校と特別支援学校の2029校（全体の6%）で、計2778人の欠員が生じていた」とのことでした。「文部科学省の2021年の同時点での調査では1591校・計2065人であったことから、1年で3割増えた」とも伝えています。

「人数は全教員の1%未満とわずかも、影響を受ける子供は万人単位にも上る」という言葉もありますし、「学校崩壊につながる恐れが出ている」との言葉もありました。

記事は「その背景には、教職の魅力低下による志願者の深刻な減少がある」と続いています。「2021年度実施の小学校の採用試験受験者は約4万人と10年前より3割減。採用倍率は4.4倍から過去最低の2.5倍になった」ことも書かれています。

教師不足は分かっていたましたが、具体的な数値を目にすると、改めて衝撃が走りました。また「**学校崩壊**」という言葉が脳裏に焼き付いて離れません。と同時に「そのようなことは、絶対にあってはならない」と決意を強くしたところです。

教師という仕事は「**日本の未来社会を担う人材育成**」という崇高な使命を帯びています。この使命を胸に秘め、若い頃から、より質の高い指導をめざし研修を積み重ねてきました。その道のりは、つらく厳しいものでしたが、授業で子供たちが見せる表情や「わかった!!」の声に、日々励まされ、がんばることができました。少々体調が思わしくないときも、学校に行って、学級の子供たちと顔を合わせ、テレビ番組の話で盛り上がりたり、ダジャレを言い合ったりして大笑いしたりするうちに、いつの間にか元気になっていることなど、一度や二度ではありません。教師は、子供たちに「指導」をする立場ですが、実は、その「指導」のパワーは、子供たちから与えてもらっているのです。目の前にいる子供たちは、無限の可能性を秘めた「宝」のような存在です。そんな子供たちに、直接かかわり、その成長を見守ることができるこの幸せは、他では決して味わうことはできないものです。また、子供たちが立派に成長した姿を目にした時も大きな喜びを感じる時です。声をかけてくれることもあります。嬉しさと恥ずかしさと、そして申し訳ない気持ち等様々な感情が湧いて出て、会話もそこそこに退散する自分がいます。でも、一人になって、嬉しくてニヤニヤしてしまうのです。教師という仕事は、やっぱり魅力があると思うのです。

とは言いながら、今や世間的に、教師は「ブラック」であるという印象がすっかり定着してしまいました。しかし、この事態を招いたのは、我々教師自身です。「不易」を重視し、何十年間にも亘り、社会の変化に対応してこなかった影響が、大きな壁となり私たちの前に立ちはだかっているのです。

ただ、元メジャーリーガーのイチロー選手の言葉に「**壁というのは、できる人にしかやっこない。超えられる人にしかやっこない。だから、壁があるときは、チャンスだと思っている**」とあります。今学校は保護者の皆様にもご支援をいただきながら、「**全ては子供たちのために**」ONE TEAMとなり、授業改善、業務改善等を積極的かつ大胆に進め、目の前の壁を越えようとしています。そして、その壁を乗り越えたその先には、生まれ変わった令和の新しい学校の姿が必ずあると信じています。

最後にお願ひです。親戚やお知り合いの方で、これから教師を志す方がいらっしゃいましたら、決して「ブラックな仕事ではない」ことをお伝えいただきますと幸いです。また、すでに各種教員免許（幼稚園含む）をお持ちで、現在は学校関係にお勤めでなく、少しでも教育という仕事に興味・関心があるという方がいらっしゃいましたら、校長（TEL 56-2763）までご一報くだされば、ご相談に応じることが可能であることもお知らせいたしますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

